

## 福岡市地域公共交通計画 施策の取組み状況

施策	取組み項目	実施主体・関係者	実施時期			課題	これまでの取組み (R7年度の取組みを中心に記載) ※実施主体・関係者が明確な取組みは【 】内に記載 (実施主体・関係者が広く関連する内容は【共通】と記載)	今後の予定・目標 (R8年度の取組みを中心に記載)	取組みによる 効果・成果
			前期 (R7～10)	中期 (R11～14)	後期 (R15以降)				
<b>目標像 I 公共交通を主軸とした持続可能な総合交通体系の構築</b>									
【施策1-1】 幹線・フィーダー化の推進  ※【施策1-2】 「交通結節機能の充実・強化」の内容を含む	幹線交通の機能強化	交通事業者、市	検討・実施	→	→				
	連節バスの導入	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・国補助活用を見据えた導入や既存車両の更新スケジュール・予算の整理(高額な車両導入・更新費への対応)	・都心部で連節バス運行開始(H28)【西鉄】 ・都心循環BRTの運行を担当する営業所と都心部間の出庫・入庫にて営業運行開始(H29)【西鉄】 ・福岡空港～博多駅間で運行開始(R7.4)【西鉄】 ・路線バスで連節バス17台が稼働中【西鉄】 ・九州大学伊都キャンパス～九大学研都市駅連節バス導入に向けての試走を実施(R7.12)【昭和】		
	道路環境の改善	交通事業者、交通管理者、市	検討・実施	→	→	走行環境等の改善 ・右左折に伴い必要な道路改良 ・バス停部での連節バス後車室乗降対応 ・バスレーンの拡充 など	・都心部における路線バス全体の安全で円滑な運行等のため、時間帯バス優先レーンの路面明示化【共通】	・連節バス新規導入路線の可能性やスケジュールについて、順次、交通事業者と市で検討【西鉄、市】 ・九州大学伊都キャンパス～九大学研都市駅における連節バス試走での課題・問題について、関係機関と連携を図り、R11年度内の連節バス導入を目指す【昭和】 ・フィーダー化の推進に向けた検討【西鉄、市】	・効率的な運行による公共交通ネットワークの維持 ・乗継利便性の向上
	フィーダー化の推進	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・折り返し運行できるバス走行ルートの確保 ・折り返し運行できる交通広場等の確保	・鉄道駅を拠点としたバス路線再編の実施(大橋、藤崎、姪浜等)【西鉄】		
	乗継利便性の向上	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・乗継利便性の向上 ・乗継料金のあり方	・鉄道駅とバス停の近接化の実施(賀茂駅、六本松駅等)【西鉄、市】 ・交通機関相互(バス-地下鉄)の乗継誘導案内の実施(六本松駅、野芥駅等)【西鉄、市交通局】 ・駅前広場等の再整備(高宮駅等)【西鉄、市】		
【施策1-2】 交通結節機能の充実・強化	駅前広場等の整備や鉄道駅とバス停近接化	交通事業者、市	検討・実施	→	→				
	駅前広場等の整備やバス停近接化	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・取組みの継続的な実施	・地下鉄橋本駅の駅前広場再整備完了(R6)【市】 ・九大学研都市駅においてモビリティハブの運用開始(R6)【昭和】	・貝塚駅(地下鉄・西鉄)及びJR貝塚駅における駅前広場の整備及び管理運用に関する市と交通事業者の協議【市】	乗継利便性の向上
	幹線フィーダー化とあわせた検討(施策1-1参照)	-	-	-	-	-	-	-	乗継利便性の向上
【施策1-3】 シェアリングモビリティの利活用	シェアリングモビリティの利活用	交通事業者、市	検討・実施	→	→				
	福岡シェアサイクル事業の推進	交通事業者、市	実施	→	→	・エリア拡大	・H30～福岡スマートシェアサイクル実証実験 R2～福岡スマートシェアサイクル事業 R7.4～福岡シェアサイクル事業【チャリチャリ】	・事業者において、西エリア(下山門駅、今宿駅、九大学研都市駅、周船寺駅周辺エリア)方面への拡大に向けたポート確保を行う(R8)【チャリチャリ】	・回遊性の向上 ・公共交通の機能の補完 ・シェアサイクルポート数 914ポート(R7)
【施策1-4】 新たなサービス・技術の利活用・検討	MaaSの推進	交通事業者、市	検討・実施	→	→				
	MaaSの推進(九州MaaS等)	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・関係者間の連携強化	・「九州MaaS」サービス開始(R6)【交通事業者】 ・「糸島半島まるっと1dayフリーパス(交通と観光連携)」(R6)【昭和、県、市】 ・「第5弾乗レール買エールチケット(交通と商業連携)」発売(R7.9～R7.11)【西鉄、JR九州、昭和】	・九州MaaSや市内を運行する交通事業者等と連携したMaaSチケットの検討【共通】	・公共交通の利便性向上・利用促進
	自動運転技術の利活用・検討	交通事業者、市	検討・実施	→	→				
	自動運転バス等の導入(箱崎周辺)	九州大学、UR都市機構、市等	検討・実施	→	→	・持続可能な事業スキーム ・技術や法制度等の成熟度 ・運行事業者等を含む体制の構築	・実証実験の実施【共通】 ・体制構築や取組み方針等の検討【共通】	・九大箱崎キャンパス跡地のまちづくりに合わせて実証走行等を予定【共通】	・先端技術による運転手不足の解消 ・持続可能な総合交通体系への寄与

福岡市地域公共交通計画 施策の取組み状況

(R8.3時点)

施策	取組み項目	実施主体・関係者	実施時期			課題	これまでの取組み (R7年度の取組みを中心に記載) ※実施主体・関係者が明確な取組みは【 】内に記載 (実施主体・関係者が広く関連する内容は【共通】と記載)	今後の予定・目標 (R8年度の取組みを中心に記載)	取組みによる 効果・成果
			前期 (R7～10)	中期 (R11～14)	後期 (R15以降)				
【施策1-5】 様々な関係者が連携した運転手不足への対応の推進	様々な関係者が連携した運転手不足への対応の推進	交通事業者、関係行政機関、市	検討・実施	→	→				
	運転手確保に向けた取組み	交通事業者、県、市	検討・実施	→	→	・取組みの継続的な実施	・「福岡県地域公共交通運転手確保等実行委員会」にて、委員会での意見を踏まえて取組みを推進【共通】 〔・業界の魅力発信などのPR ・職場環境整備への支援 など〕	・県や関係者と連携した取組みの推進【共通】	・運転手不足の改善
	効率的な運行(施策1-1、1-2、1-4の取組みを参照)	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・地域の実情に応じた対応 (連節バスの導入やフィーダー化、他モードの活用など)	・施策1-1、1-2、1-4の取組みを参照	・施策1-1、1-2、1-4の取組みを参照	・効率的な運行による公共交通ネットワークの維持
【施策2-1】 公共交通の利便性向上	駅やバス停等における待合環境の改善	交通事業者、市	検討・実施	→	→				
	バス停上屋やベンチの設置等	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・バス停の上屋・ベンチの更なる設置推進 ・歩道幅員などの道路状況や隣接地の地権者等の関係者の理解・協力促進 ・歩道スペースが狭く危険(一部バス停)	・広告事業者とも連携した上屋、ベンチの設置【西鉄、市】 ・ベンチプロジェクトにより、歩道上のバス停約320箇所にベンチを設置完了(R4)【市】 ・細型ベンチを導入し、歩道での更なるベンチ設置を推進(R7～)【市】	・広告事業者とも連携したバス停上屋、ベンチの設置推進【西鉄、市】 ・継続してベンチプロジェクトを推進【市】	・公共交通の利便性向上・利用促進 ・ベンチプロジェクトによるバス停付近へのベンチ設置数 474箇所(歩道・市有地・民有地)
	周辺施設と連携したバス待合環境の確保	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・周辺施設との連携・協力 ・進め方の整理	・西鉄大橋駅、西新PRALIVAリニューアルに合わせ、バス待合スペースを設置【西鉄】	・周辺施設と連携した待合環境の改善をどのように進めていくかについて、交通事業者と市で協議【共通】	・公共交通の利便性向上・利用促進
	ピーク時における混雑緩和対策の推進	交通事業者、市	検討・実施	→	→				
	ピーク時における混雑緩和対策	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・現状の混雑に対する更なる対策の検討	・ダイヤ改正による増便を実施【市交通局】 ・新型車両導入にあわせた空港線朝ラッシュ時の増便(R8.3)【市交通局】 ・朝ラッシュ時間帯の貝塚～香椎花園前間を2本増便(R8.3)【西鉄】 ・混雑緩和パートナー企業の募集【市交通局】	・地下鉄七隈線の車両増備(4編成)(R8～R9)【市交通局】 ・地下鉄七隈線の6両編成化の検討【市交通局】	・ピーク時の混雑緩和
	キャッシュレスの推進	交通事業者、市	検討・実施	→	→				
	クレジットカード等を活用した「タッチ決済」の推進	交通事業者	検討・実施	→	→	・現金利用者等への普及・促進 ・導入対象区間の拡大	(クレジットカードを活用したタッチ決済) ・全駅本格導入(R7.4)【西鉄】 ・路線バス3路線にて実証実験中【西鉄】 ・高速バス1路線本格導入(R8.3～)【西鉄】 ・タッチ決済を実証実験中(～R8.3)【JR九州】 ・タッチ決済を地下鉄全駅を本格導入(R6)【市交通局】(その他) ・総合交通アプリ「Pass Case」で西鉄電車の福岡(天神)⇄太宰府間1日フリー乗車券発売(R7.6～)【西鉄】	・継続して実施【共通】 ・本格導入【JR九州】 〔・鹿児島本線(R8.4～) ・香椎線、福北ゆたか線(R8.秋頃～)〕	・公共交通の利便性向上・利用促進 ・市内鉄道駅におけるクレジットカードを活用したタッチ決済の導入64駅
QR乗車券(鉄道)の導入検討	交通事業者	検討・実施	→	→	・機器やシステム等の導入による費用対効果	・QR乗車券に関する勉強会を実施(R6～)【西鉄、JR九州、市交通局】	・QR乗車券の導入にあたり、運用方法等の協議・調整を実施【西鉄、JR九州、市交通局】	・QR乗車券の利便性向上	

福岡市地域公共交通計画 施策の取組み状況

(R8.3時点)

施策	取組み項目	実施主体・関係者	実施時期			課題	これまでの取組み (R7年度の取組みを中心に記載) ※実施主体・関係者が明確な取組みは【 】内に記載 (実施主体・関係者が広く関連する内容は【共通】と記載)	今後の予定・目標 (R8年度の取組みを中心に記載)	取組みによる 効果・成果
			前期 (R7～10)	中期 (R11～14)	後期 (R15以降)				
【施策2-2】 公共交通の 利用促進	関係者が連携した公共交通利用の啓発・PRの推進	交通事業者、関係行政機関、市	継続	→	→				
	利用促進策の検討・実施	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・新たな利用促進策の検討	・企画乗車券などの発売(夏休み等のこども向け企画乗車券・特別運賃など)【交通事業者】 ・イベント等との連携【共通】 ・(再掲)「第5弾乗車用買エールチケット(交通と商業連携)」発売(R7.9～11)【西鉄、JR九州、昭和】	・継続して検討・実施【共通】	・公共交通の利便性向上・利用促進
	利用促進策の広報・PR	交通事業者、市	実施	→	→	・関係者が連携した継続的なPRの実施	・企画乗車券や特別運賃などの利用促進策について、市や関係交通事業者のHP、SNS等で情報発信【共通】	・継続して実施【共通】	・公共交通の利用促進等
	モビリティ・マネジメントの推進	交通事業者、関係行政機関、市	継続	→	→				
	転入者向けモビリティ・マネジメント	交通事業者、市	実施	→	→	・取組みの継続的な実施	・市外からの転入手続きの機会を捉えて、公共交通利用に関する情報提供を実施【市】	・継続して実施【共通】	・公共交通の利用促進等
	学生向けモビリティ・マネジメント	交通事業者、市	実施	→	→	・取組みの継続的な実施	・小学生等を対象とし、公共交通の認知や役割・意義の理解などを目的にWS等を実施【共通】 ・電車通学を促すチラシを新高校1年生を対象に配布【西鉄】	・継続して実施【共通】	・公共交通の利用促進等
	商業施設・事業所向けモビリティマネジメント	交通事業者、市	実施	→	→	・取組みの継続的な実施	・事業所等と連携し、自家用車による出勤の抑制を実施【共通】	・継続して実施【共通】	・公共交通の利用促進等
	オフピーク利用の促進	交通事業者、市	実施	→	→	・効果的な働きかけや情報発信の実施 ・取組みの継続的な実施	・混雑緩和とパートナー企業の募集(再掲)【市交通局】	・継続して実施【共通】	・公共交通の利用促進等
	パーク・アンド・ライドの推進	交通事業者、関係行政機関、市	継続	→	→				
	商業施設と連携したパーク・アンド・ライド	商業施設、交通事業者、市	実施	→	→	・駐車機能の確保に向けた取組みの継続的な実施	・商業施設と連携したパーク・アンド・ライドを実施(都市圏10施設)【共通】	・適宜関係者協議を実施【共通】	
	交通事業者と連携したパーク・アンド・ライド	交通事業者、市	実施	→	→	・駐車機能の確保に向けた取組みの継続的な実施	・交通事業者等と連携したパーク・アンド・ライドを実施(都市圏月極41箇所、時間貸26箇所)【共通】	・適宜関係者協議を実施【共通】	・商業施設と連携したパーク・アンド・ライド利用台数 425台(R7)
	パーク・アンド・ライドに関する情報発信	商業施設、交通事業者、関係行政機関、市	実施	→	→	・効果的な情報発信の実施	・福岡市のHPで都市圏のP&R駐車場を一括で情報発信【市】	・利用拡大のため、引き続き周知や利用促進を進める【市】	
	都心循環BRTの利用促進	交通事業者、市	継続	→	→				
	都心循環BRTの利用促進	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・交通事業者と連携した利便性向上や利用促進の取り組み	・BRT利用者および沿線の施設利用者への聞き取り調査による、課題の把握【市】	・引き続き、更なる利便性向上や利用促進に取り組みながら、新たな対応策を検討【共通】	・公共交通利用促進等
	都心循環BRTでの「タッチ決済」の実証実験実施	交通事業者	実施	→	→	・現金利用者への周知・理解促進	・「タッチ決済」の実証実験を開始(R5～)【西鉄】	-	・定時性の向上
【施策2-3】 交通案内や 受入環境の 充実・強化	乗り場案内や案内サインの充実・強化	交通事業者、市	検討・実施	→	→				
	交通事業者間の相互運行情報表示	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・交通事業者、施設管理者との協議・連携	・地下鉄駅構内にバスナビを設置し、バス車内では乗換案内を実施(六本松駅、賀茂駅、野芥駅)【市交通局、西鉄、市】	・適宜関係者協議を実施【共通】	・乗継利便性の向上
	公共交通案内の充実	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・交通事業者、施設管理者との協議・連携	・民間建築物の建て替え等に併せ、公共交通案内等を検討【共通】 ・電車・バスのLCD表示器による時刻表や運行情報の表示を実施(ワンビル内ホール等)【西鉄】	・適宜関係者協議を実施【共通】	・乗継利便性の向上
	来街者にも使いやすい交通サービスの充実・強化(MaaS等)	交通事業者、市	検討・実施	→	→				
	共通乗車券の検討	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・取組みの継続的な実施	・外国人旅行者を対象とした1日乗車券の販売(FukuokaTouristCityPass)【共通】 ・デジタル乗車券での販売開始(R2～)【共通】	・継続して実施【共通】	・乗継利便性の向上

福岡市地域公共交通計画 施策の取組み状況

(R8.3時点)

施策	取組み項目	実施主体・関係者	実施時期			課題	これまでの取組み (R7年度の取組みを中心に記載) ※実施主体・関係者が明確な取組みは【 】内に記載 (実施主体・関係者が広く関連する内容は【共通】と記載)	今後の予定・目標 (R8年度の取組みを中心に記載)	取組みによる 効果・成果
			前期 (R7～10)	中期 (R11～14)	後期 (R15以降)				
<b>目標像Ⅱ 都市の魅力・活力を高める交通</b>									
<b>【施策3-1】</b>									
【施策3-1】 拠点への アクセス強化  (参考)都市交通基本 計画の関連施策 ・幹線道路ネットワーク の形成 ・ボトルネック交差点の 改良 など	拠点へのアクセス強化	交通事業者、 関係行政機関、市	検討・実施	→	→				
	拠点へのアクセス強化	交通事業者、 関係行政機関、市	検討・実施	→	→	・既存ストックの活用や新たな技術の 活用による効率的・効果的な取組み の推進	・都心循環BRTの導入(H28)【西鉄、市】 ・地下鉄七隈線の延伸(天神南-博多)(R4)【市交通 局】	・拠点ごとの取組みの検討・実施【共通】 ・地下鉄延伸の実現可能性の検討(福岡空港、姪浜橋本 間)【市交通局】	・拠点等へのアクセス 向上
<b>【施策3-2】</b>									
【施策3-2】 地下鉄箱崎線と 西鉄貝塚線の 直通運転化の検討	地下鉄箱崎線と西鉄貝塚線の 直通運転化の検討	交通事業者、市	検討	→	→				
	直通運転化の検討	交通事業者、市	検討	→	→	・過年度の検討では、国庫補助採択 基準を満たすことはできていない	・3両直通案(～H26)、増結・分離案(～R2)の検討 【市】 ・利便性向上に関する取組み(乗継利便性向上、駅バリ アフリー化など)【共通】 ・利用促進に関する取組み(モビリティ・マネジメントなど) 【共通】	・交通状況の変化や国制度の動向などを踏まえた検討 【西鉄、市】	・利用者数の増加 ・東部地域と都心部間 の交通利便性の向上 及び連携強化
<b>【施策3-3】</b>									
【施策3-3】 鉄道高架化の検討 (井尻地区等)	鉄道高架化の検討(井尻地区等)	交通事業者、市	検討	→	→				
	鉄道高架化の検討	交通事業者、市	検討	→	→	・過年度の検討では、国庫補助採択 基準を満たすことはできていない	・鉄道高架化の費用対効果を試算(～R2)【市】	・交通状況の変化や国制度の動向などを踏まえた検討 【市】	・交通渋滞の緩和 ・踏切事故の減少 ・CO2排出量削減
<b>【施策3-4】</b>									
【施策3-4】 自然などの 地域資源等への 観光周遊を促す 交通環境づくり	自然などの地域資源等への 観光周遊を促す交通環境づくり	交通事業者、市	検討・実施	→	→				
	自然などの地域資源等への 観光周遊を促す交通環境づくり	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・継続的な取組みが必要	・ウエストコーストライナーの運行【昭和】 ・イベント等に合わせた情報案内・利用促進【共通】	・継続して実施【共通】	・公共交通利用促進等
<b>【施策4-1】</b>									
【施策4-1】 自動車流入の抑制	フリンジパーキングの利用促進	駐車場事業者、 交通事業者、エリア マネジメント団体、市	継続	→	→				
	フリンジパーキングの利用促進	駐車場事業者、 交通事業者、エリアマネジ メント団体、市	検討・実施	→	→	・認知度向上に向けた広報 ・効果的な広報媒体等の整備 ・広報に要する予算の確保 ・市域外への広報活動 ・公共交通運賃とバランスの取れた 料金設定	・認知度向上に向けた広報 【様々な媒体での情報発信(街路灯バナー、チラシ・ ポスター(商業施設、SA・PA、道の駅等)、 SNS、市政だより、県政だより等)【エリマネ、市】】 ・利便性向上策の実施 【博多駅地区への拡大【共通】 ・対象駐車場の拡大【共通】 ・福岡市駐車場ナビ(天神地区)との連携【市】 ・利用方法動画の制作と発信【エリマネ、市】】 ・R7.10～R8.3 社会実験の実施(利用料金低減による 利用動向の検証等)【エリマネ、市】	・定期的な広告発出【エリマネ、市】 ・さらなる商業施設等での広告掲出【エリマネ、市】 ・デジタルサイネージ等視認性の高いまちなか広告 枠(新設)での掲出【エリマネ、市】 ・対象駐車場の拡大【共通】 ・更なる利便性向上の取組みを実施【エリマネ、市】 ・福岡市駐車場ナビ(博多地区)との連携【市】	・サービス利用者数の 増加 +約70% (R7.9:実験前→ R8.3:実験中) ・市内のマイカー利用 者の認知度の増加 (R4 約3割→R7 約5 割) ・都心部への自動車流 入の抑制 ・CO2排出量の削減
	附置義務駐車場条例の特例制度の 運用	駐車場事業者、建物所有 者、交通事業者、エリアマ ネジメント団体、市	継続	→	→				
	附置義務駐車場条例の特例制度 の運用	建物所有者、市	検討・実施	→	→	-	・公共交通利用促進措置の実施による附置義務台数の 低減【市】 ・天神中心部(隔地促進エリア)における附置義務駐車 場の隔地化【市】 ・附置義務条例・施行規則改正(公共交通利用促進措 置による低減率の上限値を緩和等)(R8.4～)【市】	・継続して実施【共通】	・都心中心部への自動 車流入の抑制
	パーク・アンド・ライドの推進 ※施策2-2再掲	交通事業者、 関係行政機関、市	継続	→	→				

福岡市地域公共交通計画 施策の取組み状況

(R8.3時点)

施策	取組み項目	実施主体・関係者	実施時期			課題	これまでの取組み (R7年度の取組みを中心に記載) ※実施主体・関係者が明確な取組みは【 】内に記載 (実施主体・関係者が広く関連する内容は【共通】と記載)	今後の予定・目標 (R8年度の取組みを中心に記載)	取組みによる 効果・成果
			前期 (R7~10)	中期 (R11~14)	後期 (R15以降)				
<b>【施策4-2】 道路交通の円滑化</b>	バス交通の円滑化	交通事業者、市	継続	→	→				
(参考)都市交通基本 計画の関連施策 ・荷捌き駐車対策 ・駐車場の満空等の 情報提供	バス乗降環境の改善	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・都心部における乗降スペース拡大 に向けた道路附属物等の調整 ・商業施設周辺等、局所的な渋滞発 生に伴う運行の遅れ	・交通事業者と市で連携して検討・実施【共通】 ・商業施設周辺等、局所的な渋滞発生箇所におけるバス 交通の円滑化に向けた協議を実施【西鉄、市】	・交通事業者と市で連携して検討【共通】 ・バス乗降環境の改善	
	タクシーの適正利用の促進	交通事業者、市	継続	→	→				
	タクシー乗り場の適正利用の促進	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・タクシー乗り場の適正利用の促進	・駅前広場等におけるタクシー乗り場の整備【共通】	・交通事業者と市で連携して検討【共通】 ・タクシーの利便性向 上	
<b>【施策4-3】 人を中心とした 歩きたくなる 回遊空間の創出</b>	人を中心とした歩きたくなる 回遊空間の創出	エリアマネジメント団体、 建物所有者、市	継続	→	→				
(参考)都市交通基本 計画の関連施策 ・道路空間の再整備・ 高質化・利活用 ・上空通路や地下通路 などによる立体的な 歩行者ネットワークの 充実・強化	博多駅地区における道路空間等 (公開空地・地下通路含む)の再 整備・高質化の推進および利活用 促進	エリアマネジメント団体、 建物所有者、地下通路管 理者、市	検討・実施	→	→	・警察、地元等関係者との合意形成 ・再整備・高質化・にぎわいづくりに 要する予算の確保(交付金等の活 用や自主財源の確保)【エリマネ】	・ほこみち制度を活用したイベントの実施【エリマネ、市】 ・まちづくりガイドライン(未来ビジョン)の改訂【エリマネ】 ・祇園博多間地下通路美装化【エリマネ】 ・公開空地活用登録制度を活用したにぎわいづくり【エリ マネ、建物所有者、市】	・道路空間の再構築・高質化の検討・実施(中期~長期) 【エリマネ、市】 ・沿道と一体となった日常的にぎわいづくり(道路区域 でのオープンカフェや店舗)(短期~中期)【エリマネ、 市】 ・ほこみち指定路線の拡大に向けた社会実験等の実施 (短期~中期)【エリマネ、市】 ・滞在快適性等向上区域(まちなかウォークブル区域)の 拡充とベンチ等の設置(中期~長期)【エリマネ、市】	・歩行者交通量の増加 ・まちなかでの歩行者 が楽しく歩きたくると 感じる人の増加
	天神地区における人中心の道路空 間形成に向けた検討	エリアマネジメント団体、 建物所有者、県、市	検討・実施	→	→	・道路空間活用ニーズや必要な機能 の整理 ・建物所有者、警察、地元等関係者 との合意形成 ・屋台条例との整合性	・市道天神四号線などでのほこみち制度を活用したイベ ント等の実施【エリマネ、市】 ・天神中央公園・ふくぎん広場等でのイス・テーブルの常 時設置による実証実験【エリマネ、市】	・人中心の道づくりに向け、ほこみち制度を活用した歩行 者専用道路化(歩行者天国)などによるイベント等の実 施【エリマネ、市】 ・ほこみち指定路線の拡大に向けた社会実験等の実施 (因幡町通り、明治通り(中期)、サザン通り、渡辺通り等 (長期))【エリマネ、市】 ・イス・テーブルの常時設置箇所の段階的な拡大、拡充 (道路、公開空地、公園)【エリマネ、市】	・人中心の空間形成 ・憩い、賑わい空間の 拡大 ・多様な人との交流機 会の創出 ・公共空間の高質化に よるウェルビーイングの 向上

福岡市地域公共交通計画 施策の取組み状況

(R8.3時点)

施策	取組み項目	実施主体・関係者	実施時期			課題	これまでの取組み (R7年度の取組みを中心に記載) ※実施主体・関係者が明確な取組みは【 】内に記載 (実施主体・関係者が広く関連する内容は【共通】と記載)	今後の予定・目標 (R8年度の取組みを中心に記載)	取組みによる 効果・成果
			前期 (R7~10)	中期 (R11~14)	後期 (R15以降)				
<b>目標像Ⅲ 市民の日常を支え誰もが安全・安心な交通</b>									
<b>【施策5-1】</b>									
バス路線の休廃止に伴う公共交通空白地における代替交通の確保	バス路線の休廃止に伴う公共交通空白地における代替交通の確保	地域、交通事業者、市	継続	→	→				
	休廃止路線における代替交通の運行	地域、交通事業者、市	実施	→	→	・取組みの継続的な実施 ・減便等による時間帯空白の顕在化	・市内5路線に運行経費の補助を実施【市】 ・地域の実情に応じた運行内容の見直し【共通】	・移動ニーズ等を踏まえながら、地域の実情に応じた支援や運行内容・形態の見直しを実施【共通】	・新たな公共交通空白地0地域を維持
<b>【施策5-2】</b>									
公共交通が不便な地域における取組みへの支援の強化	公共交通が不便な地域における取組みへの支援の強化	地域、交通事業者、市	継続	→	→				
	公共交通不便地における取組みへの支援の強化	地域、交通事業者、市	実施	→	→	地域、交通事業者、市の三者が連携し、地域の実情に応じた取組みが必要	・オンデマンド交通社会実験を実施(R4~R7)【共通】 ・社会実験での成果などを踏まえ、支援制度を拡充【市】 ・生活交通確保に取り組む地域の募集を行い、応募のあった44校区について地域などと協議・検討を実施【共通】	・運行エリアを新たな地域に広げるなど、地域の実情に応じた持続可能な生活交通を確保【共通】	・公共交通不便地等における取組み地域4エリア(18校区)
<b>【施策6-1】</b>									
公共交通のバリアフリー化の推進	公共交通のバリアフリー化の推進	交通事業者、市	継続	→	→				
	鉄道駅のバリアフリー化	交通事業者、市	実施	→	→	・取組みの継続的な実施	・バリアフリー整備基本方針に基づきホームドアや案内設備の設置など、鉄道駅のバリアフリー化を実施【共通】 ・R7年度中に福岡(天神)駅全てのホームにホームドアの設置を完了【西鉄】	・国の基本方針改正(R8.4整備項目の追加等)も踏まえ、鉄道駅のバリアフリー化を推進【共通】	・鉄道駅バリアフリー化率73.5%(R6)
	ノンステップバスの導入	交通事業者、市	実施	→	→	・取組みの継続的な実施 ・脱炭素化の取組みと合わせて車両導入費が増大しており、補助金等の活用が必要	・車両更新に合わせてノンステップバスを導入【共通】	・引き続き、車両更新に合わせてノンステップバスを導入を推進【共通】	・ノンステップバス導入率44.4%(R6)
	ユニバーサルデザインタクシーの導入	交通事業者、市	実施	→	→	・取組みの継続的な実施	・車両の購入時にユニバーサルデザインタクシーを導入【共通】	・引き続き、ユニバーサルデザインタクシーの導入を推進【共通】	・ユニバーサルデザインタクシー導入率24.3%(R6)
<b>【施策6-2】</b>									
自転車等の適正利用の促進	自転車等の適正利用の促進	関係行政機関、福岡市	継続	→	→				
	(参考)都市交通基本計画の関連施策 ・自転車利用環境の向上(自転車通行空間や駐輪場の整備)	交通事業者、交通管理者、市	実施	→	→	・近年の道路交通法の改正(自転車罰則強化、特定小型原動機付自転車等)を踏まえ、正しい交通ルールの周知・啓発が必要	・交通管理者等と連携した自転車や特定小型原動機付自転車の安全利用の周知・啓発【共通】	・適宜関係者協議を行いながら、継続実施【共通】	・交通マナーの向上 ・自転車関連事故の発生件数の減少-87件(R6→R7)
<b>【施策7-1】</b>									
橋梁等の耐震補強の推進	橋梁等の耐震補強の推進	交通事業者、市	継続	→	→				
	(参考)都市交通基本計画の関連施策 ・橋梁等の耐震補強の推進	交通事業者、市	検討・実施	→	→	・工事費の増加 ・国土交通省令等の改正(R5)を踏まえた鉄道施設の耐震補強の推進(緊急輸送道路の機能維持)	・主要な鉄道高架駅や高架橋について、耐震補強等を実施【共通】 ・計画に基づき、福岡(天神)~井尻間・高架橋柱の補強を実施【西鉄】	・関係者間の協議・調整【共通】 ・高架橋の耐震補強を継続実施【西鉄】	・公共交通の安全性向上 ・大規模地震時の緊急輸送網の確保
	跨線橋の耐震補強の推進	交通事業者、市	実施	-	-	・鉄道事業者と連携した工事の実施が必要	・「福岡市橋梁耐震補強計画」に基づき、跨線橋の耐震化を順次実施【市】	・対策が必要な跨線橋(13橋)については、R10年度の対策完了を目指す【市】	・災害時の交通確保 ・災害時の利用者の安全確保

福岡市地域公共交通計画 施策の取組み状況

(R8.3時点)

施策	取組み項目	実施主体・関係者	実施時期			課題	これまでの取組み (R7年度の取組みを中心に記載) ※実施主体・関係者が明確な取組みは【 】内に記載 (実施主体・関係者が広く関連する内容は【共通】と記載)	今後の予定・目標 (R8年度の取組みを中心に記載)	取組みによる 効果・成果
			前期 (R7~10)	中期 (R11~14)	後期 (R15以降)				
<b>目標像Ⅳ 環境にやさしい交通</b>									
【施策8-1】 公共交通や 自動車の脱炭素化	公共交通や自動車の脱炭素化	交通事業者、市	継続	→	→				
	連節バスの導入	交通事業者、市	実施	→	→	・温室効果ガス排出削減に向けた、継続的な取組みの実施 ・国補助活用を見据えた導入や既存車両の更新スケジュール・予算の整理(高額な車両導入・更新費への対応)	・路線バスで連節バス17台が稼働中【西鉄】	・連節バス新規導入路線の可能性やスケジュールについて、順次、交通事業者と市で検討【西鉄】	・CO2排出量の削減
	電動化バスの導入	交通事業者、市	実施	→	→	・バス営業所等に充電関連設備の設置などインフラ整備に関する費用 ・電気バス導入費用 ・電気バスの急速充電に伴う電気基本料金の増加 ・その他電動化バスの導入可否検証	・電気バス(新車)1台導入(R7.5)【西鉄】 ・R7年度にレトロフィット電気バス26台を追加導入(これまでに約50台導入)【西鉄】	・レトロフィット電気バスを追加導入予定【西鉄】 ・燃料電池バスの導入検討【西鉄】	・CO2排出量の削減
	省電力鉄道車両の導入拡大	交通事業者、市	実施	-	-	・車両導入コストの増加	・4000系車両を5編成導入(R7)【市交通局】 ・4000系車両を延べ8編成導入(R6~)【市交通局】 ・9000形車両を7両導入(天神大牟田線)(R7)【西鉄】 ・貝塚線のVVVF車運用開始(7050形車両を天神大牟田線より6両転籍)(R7)【西鉄】	・4000系車両を5編成導入予定(R8)(R9に全18編成の導入完了予定)【市交通局】 ・9000形車両を追加導入予定(天神大牟田線)(R8)【西鉄】 ・貝塚線にVVVF車追加導入予定(7050形車両を天神大牟田線より転籍予定)(R8)【西鉄】	・4000系車両については、高効率モーター等の採用により使用電力量の約40%低減 ・9000形、7050形については、VVVF車両の導入による省電力化
	シェアリングモビリティの利活用 ※施策1-3再掲	交通事業者、市	検討・実施	→	→				